

ねりま幼保小の架け橋期プログラムの活用等について
(幼保小連携研修会でのアンケート結果から)

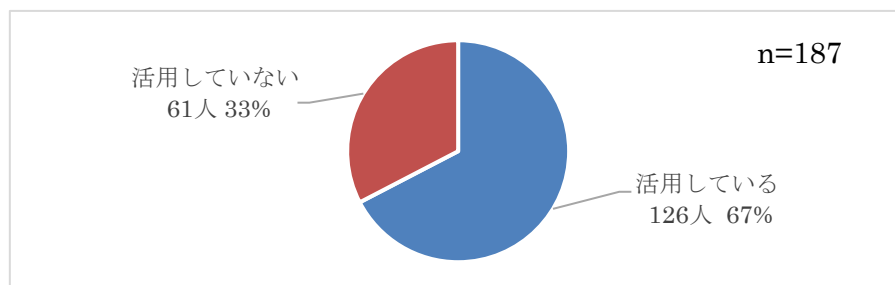
1 アンケートの概要

(1) 「ねりま幼保小の架け橋期プログラム」について

① 架け橋期プログラムを活用していますか

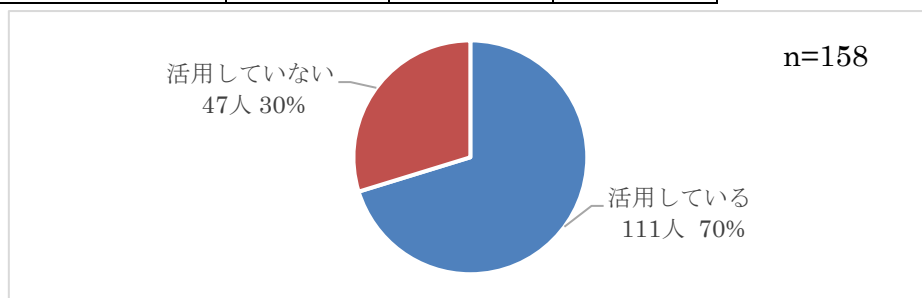
《管理職対象》

	幼・保	小学校	計
活用している	91	35	126
活用していない	52	9	61
計	143	44	187



《担任対象》

	幼・保	小学校	計
活用している	83	28	111
活用していない	41	6	47
計	124	34	158



架け橋期プログラムを活用していない理由

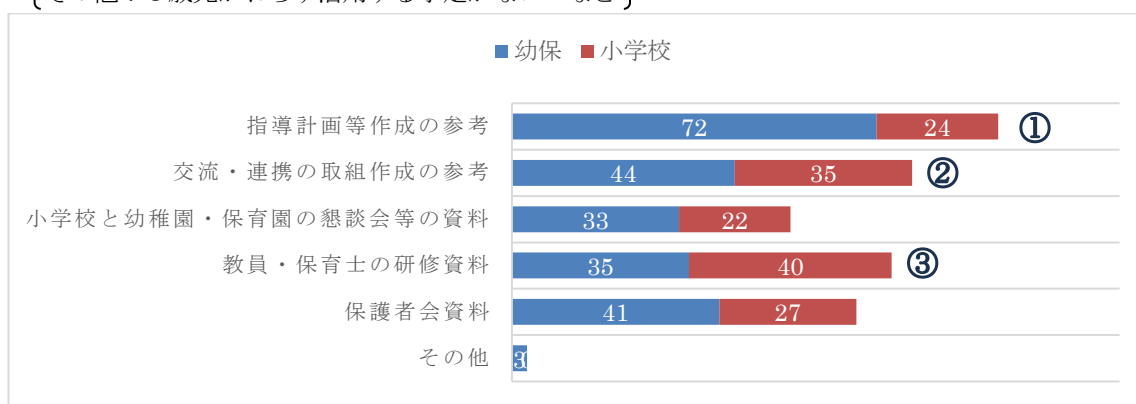
- ◆存在を知らなかった
- ◆時間がなく、読み込めていなかった
- ◆多忙で余裕がなく、これまでの行事を踏襲している
- ◆活用方法が分からない
- ◆日々の保育に取り入れることが難しい
- ◆5歳児の人数が少ない
- ◆失念していた など

② 架け橋期プログラムをどのような場面で活用していますか（したいですか）
（複数回答可）

《管理職対象》

活用内容	幼・保	小学校	合計
指導計画等作成の参考	72	24	96
交流・連携の取組作成の参考	44	35	79
小学校と幼稚園・保育園の懇談会等の資料	33	22	55
教員・保育士の研修資料	35	40	75
保護者会資料	41	27	68
その他	3	0	3

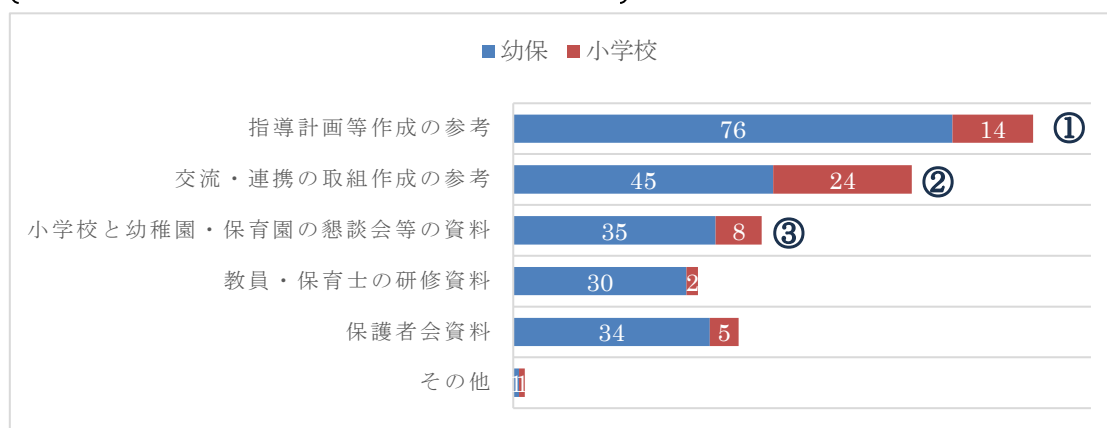
〔その他：5歳児がおらず活用する予定がない など〕



《担任対象》

活用内容	幼・保	小学校	合計
指導計画等作成の参考	76	14	90
交流・連携の取組作成の参考	45	24	69
小学校と幼稚園・保育園の懇談会等の資料	35	8	43
教員・保育士の研修資料	30	2	32
保護者会資料	34	5	39
その他	1	1	2

〔その他：クラスだよりの資料、スタートカリキュラム〕



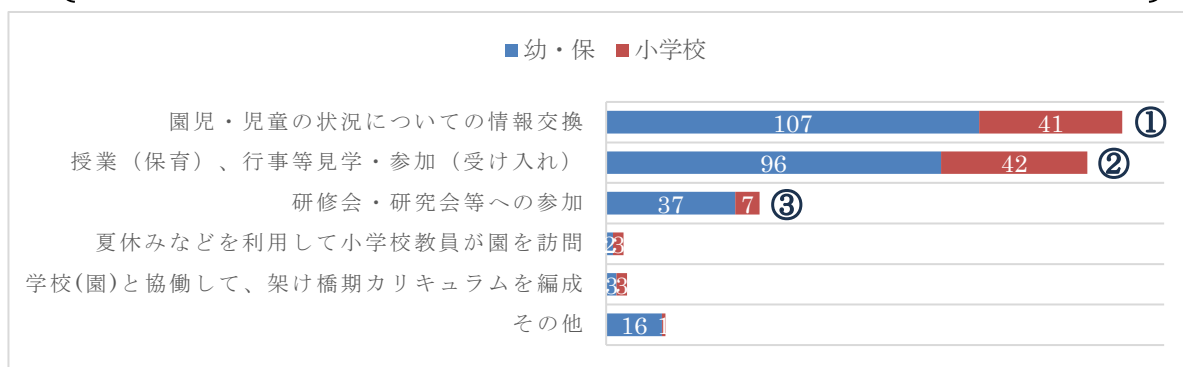
(2) 幼保小連携の取組について

① 令和6年度および令和7年度に実施した交流・連携の取組を教えてください
(複数回答可)

《管理職対象》

実施した取組の内容	幼・保	小学校	計
園児・児童の状況についての情報交換	107	41	148
授業（保育）、行事等見学・参加（受け入れ）	96	42	138
研修会・研究会等への参加	37	7	44
夏休みなどを利用して小学校教員が園を訪問	2	3	5
学校(園)と協働して、架け橋期カリキュラムを編成	3	3	6
その他	16	1	17

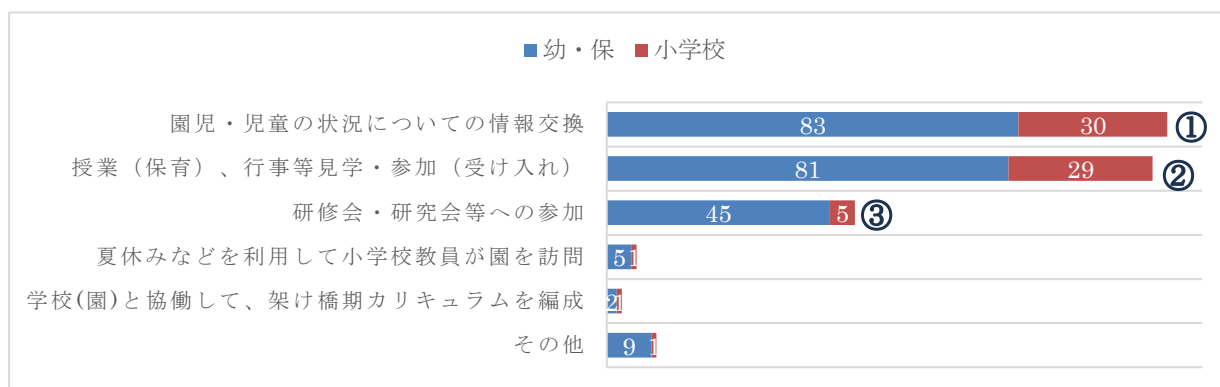
〔その他：小学校長による5歳児保護者への講演・懇談会、5歳児と1年生の交流会、学校探検、1年生担任と意見交換会、小学校教員・保護者・5歳児担任との交流の場の提供 など〕



《担任対象》

実施した取組の内容	幼・保	小学校	計
園児・児童の状況についての情報交換	83	30	113
授業（保育）、行事等見学・参加（受け入れ）	81	29	110
研修会・研究会等への参加	45	5	50
夏休みなどを利用して小学校教員が園を訪問	5	1	6
学校(園)と協働して、架け橋期カリキュラムを編成	2	1	3
その他	9	1	10

〔その他：小学校長との懇談会、園児の学校見学、小学校の校庭で遊ぶ、学童の祭り参加 など〕

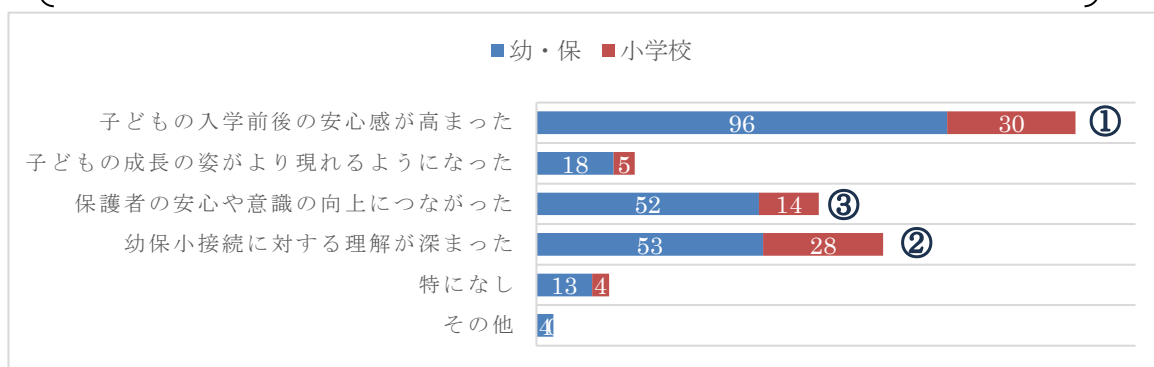


② 交流・連携の取組を実施したことで、子ども・職員・保護者に見られた変化はありますか（複数回答可）

《管理職対象》

見られた変化	幼・保	小学校	計
子どもの入学前後の安心感が高まった	96	30	126
子どもの成長の姿がより現れるようになった	18	5	23
保護者の安心や意識の向上につながった	52	14	66
幼保小接続に対する理解が深まった	53	28	81
特になし	13	4	17
その他	4	0	4

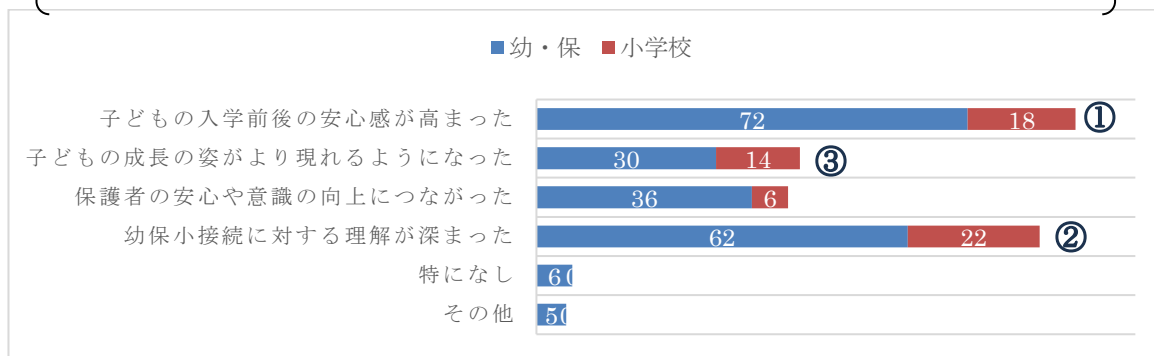
（その他：職員が学校現場を知る機会になっている、子どもたちの学校への期待感が高まった、着任したばかりでわからない、取組を実施できていない）



《担任対象》

見られた変化	幼・保	小学校	計
子どもの入学前後の安心感が高まった	72	18	90
子どもの成長の姿がより現れるようになった	30	14	44
保護者の安心や意識の向上につながった	36	6	42
幼保小接続に対する理解が深まった	62	22	84
特になし	6	0	6
その他	5	0	5

（その他：わからない、一度の交流だったので子どもたちの安心感につながるには至らなかった
ようだが、入学を楽しみにする子もいた）

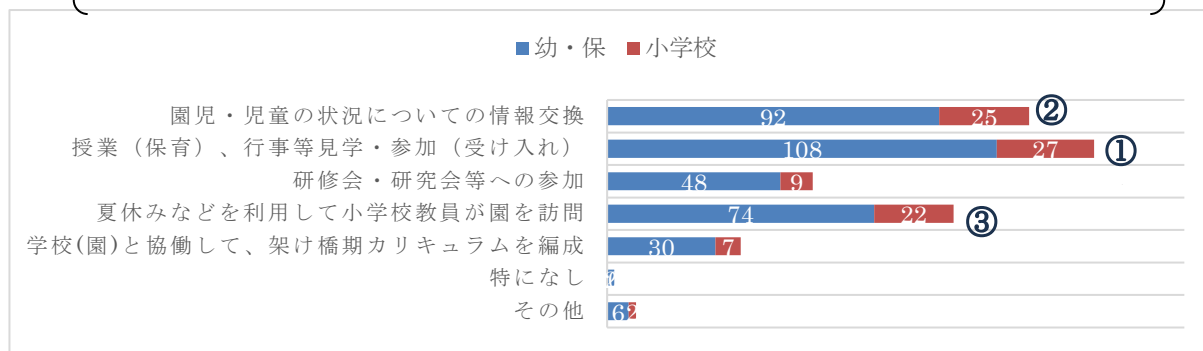


③ 今後、実施したい交流・連携の取組はありますか（複数回答可）

《管理職対象》

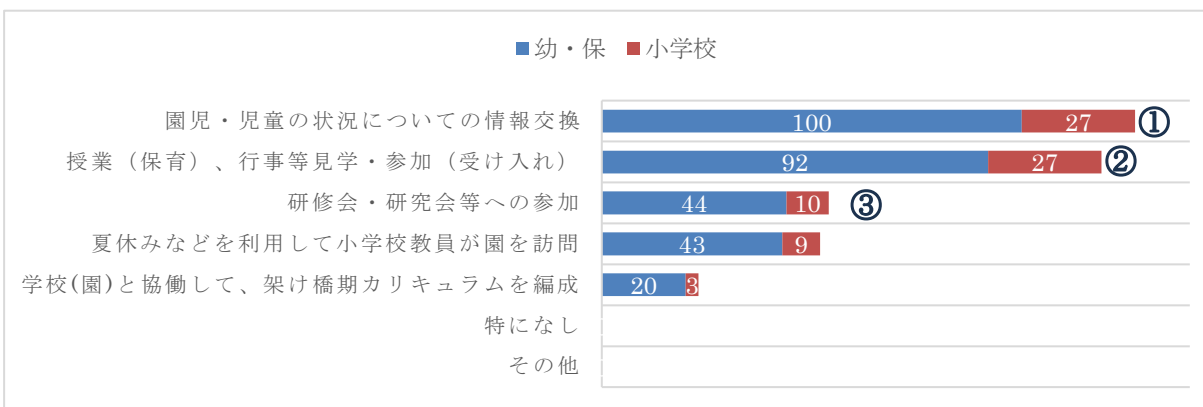
実施したい取組の内容	幼・保	小学校	計
園児・児童の状況についての情報交換	92	25	117
授業（保育）、行事等見学・参加（受け入れ）	108	27	135
研修会・研究会等への参加	48	9	57
夏休みなどを利用して小学校教員が園を訪問	74	22	96
学校（園）と協働して、架け橋期カリキュラムを編成	30	7	37
特になし	2	0	2
その他	6	2	8

（その他：小学校長による講演、地域の幼保小の現場職員の交流・意見交換、これまでの取組の充実を図りたい、これ以上現場の仕事を増やしたくない など）



《担任対象》

実施したい取組の内容	幼・保	小学校	計
園児・児童の状況についての情報交換	100	27	127
授業（保育）、行事等見学・参加（受け入れ）	92	27	119
研修会・研究会等への参加	44	10	54
夏休みなどを利用して小学校教員が園を訪問	43	9	52
学校（園）と協働して、架け橋期カリキュラムを編成	20	3	23
特になし	0	0	0
その他	0	0	0



実施したい交流・連携の取組が、現在実施できていない理由

- ◆小学校教員も保育士もそれぞれの行事や日常の仕事が非常に忙しい
- ◆双方の時間の確保が難しい
- ◆新しい園のためつながりがない
- ◆小学校にどのように依頼すればいいかわからない など

2 アンケート結果から見てきた課題と対応策案等

(1) 「ねりま幼保小の架け橋期プログラム」の活用について

課題

約3割が「ねりま幼保小の架け橋期プログラム」を活用していない。

研修会での要望

担任対象研修で、意見交換会の時間増を求める声が多かった。

活用していない理由（アンケート結果より）

「存在を知らなかった」が多く、「読み込む時間がない」「活用方法が分からない」「日々の保育に取り入れることが難しい」という声もある（p1）。

対応策案

来年度の担任対象研修の形式を変更する。

<研修の流れ案>

- ① 「ねりま幼保小の架け橋期プログラム」を活用して、地域ごとのグループで各園・学校における具体的な取組や工夫していることを出し合い、幼児期から小学校への教育のつながりについての話し合いをする。
- ② いくつかのグループに発表してもらい、他地域の情報も得られるようにする。
- ③ 講師から講評・アドバイスをもらう。

<期待される効果>

- ・ダイレクトな「ねりま幼保小の架け橋期プログラム」の認知・活用機会となる。
- ・他園・学校の取組を共有でき、参考にして現場で役立てることができる。
- ・情報交換・交流時間が増える。

(2) 幼保小連携の取組について

① 実施したい交流・連携の取組の実施について

課題

実施したい交流・連携の取組ができていない。



実施したい交流・連携の取組が、現在実施できていない理由
(アンケート結果より)

「時間の確保が難しい」「園と小学校とのつながりが無い」「どのように依頼すればいいか分からない」といった声がある (p6)。



対応策案

研修会の意見交換会の場を活用する。
実施したい交流・連携の取組や、近隣園との合同実施の相談などについても、意見交換会のテーマとするよう、働きかけを行う。

② 小学校教員による園の訪問について

課題

今後実施したい取組 (p5) として、
「小学校教員が園を訪問」を挙げる意見がある一方で、実施の訪問数は少ない (p3)。

研修会での意見

1年生担任から、「他の自治体では、小学校の教員全員が分散して幼稚園や保育園の指導を見に行くことがあった。練馬区としてそのような取組は行わないのか」との意見があった。



検討事項

- ・教員全員が分散して園への訪問を実施することにより、学校全体で1年生を育てようという意識の醸成が期待できる。
- ・一方で、教員の負担軽減も課題となっている。
- ・無理のない範囲での現実的な対応を検討する必要がある。

(例) 訪問を希望する園に対して、可能な範囲で対応する。対応できなかった園については、翌年度以降に順番に訪問する。 など

③ 学校と園とが協働したカリキュラムの編成について

課題

今後実施したい取組 (p5) として、「学校（園）と協働して、架け橋期カリキュラムを編成」を挙げる意見がある一方で、実際に編成を行った数は少ない (p3)。

文科省等による推進

- ・文部科学省およびこども家庭庁は、「小学校と協働して、5歳児から小学1年生の2年間のカリキュラムを編成・実施していること」を推進しており、園への補助金の対象としている。
- ・区としても、「練馬区幼保小連携推進方針」および「ねりま幼保小の架け橋期プログラム」において、「協働による架け橋期のカリキュラムの検討・開発、実施、検証、改善」を最終段階の目標としている。



対応策案

今後の研修のテーマとして、「協働した架け橋期カリキュラムの編成」を取り上げ、講師に実際の作成についての考え方や進め方などを紹介してもらい、参考としてもらうことを検討する。